七福神信仰

加藤幸一

〔七福神のおこり〕

将軍徳川家康が　天海僧正（家康の信頼を受け　家康の政治を助ける．二代及び三代将軍にも仕える．日光東照宮を建てたり　上野の寛永寺を建てたりした．伝えでは　数え年１０８歳まで生きたという）に

「国が栄えるようになり　人徳がたかまるようにするには　どのような道が大切であろうか」

と質問されたのに対し．僧正は

「仁王経などの経典に説かれている教えを大切にすれば　七難即滅し、七福即生します」（仁王経に「七難即滅　七福即生」のことばがある．）

と答えた．

さらに家康は

「七福とは　なにか」

僧正は

「七福とは　寿命、有福、人望、清廉、威光、愛嬌、大量であります」

と答え　この七つの福徳が　人生にとって　大切であることを説明した．そこで家康は　早速　狩野派の画家に　七福の神々を画かせた。

七福神は　七難（仁王経によると　日月の難、星宿の難、火災の難、水害の難、風害の難、旱魃の難、戦乱盗賊の難の七つ）を除き　七福（寿老神の寿命、大黒天の有福、恵比須神の人望、布袋尊の清廉、毘沙門天の威光、弁財天の愛嬌福禄寿の大量の七つ）を与える神々、つまり仁王経に説く「七難即滅　七福即生」の神々とされるようになった．

このように　七福神の神々は　家康と天海僧正の問答から生まれたとの伝えがあるが　七種類の福神が民間信仰としてあらわれてきたのは　それよりずっと以前の室町時代終り頃からとも推定されている．

参考にした主な本
「深川七福神」（深川七福神会）
「大日本百科事典」（小学館）
その他
S58・1・15

〔宝船〕

七福神は 最初、七福神を宝船に乗せた絵から一般にひろまったと考えられている。江戸時代初期から七福神を乗せた宝船の絵を 正月二日、枕の下に入れて寝ると 吉夢（めでたい夢）を見るということが さかんにおこなわれるようになった。宝船のことを「おたから」といい、正月二日、おたからを江戸の町に売り歩くのを お宝売りといって、お宝売りの呼び声が町中に賑わった。

この宝船の絵に「ながきよの とをのねぶりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな」（長き夜の 唐の眠りの皆目ざめ 波乗り船の音のよきかな）という五七五七七の短歌を書き添えている。この短歌は 上から詠んでも 下から詠んでも同じ文となる回文である。聖徳太子の作との伝えがある。

宝　船

〔七福神巡り（七福神詣で）〕

七福神めぐりとは 元日から七日頃まで その年の福運を祈って七福神を祀る神社や寺院を巡拝することである。この七福神めぐりは 谷中（上野と本郷の間にある）の七福神めぐりが最初といわれている。七福神めぐりが有名になったのは 隅田川の七福神めぐりで これは 文化元年（1804年）向島百花園が開園されてから始まった。今と違ってたいした娯楽もなかった江戸時代のことですから 物見遊山を兼ねた七福神詣でが 各地に始まり 文化・文政年間（1804年～1829年）の頃から特にさかんとなった。

〔七 福 神〕

寿老神（長寿の神さま）

寿老神は 白髪長寿の老人の姿をして 杖を左手に持ち 杖には人命の長寿を記した巻物を吊し 右手には うちわを持ち 鹿を伴っている。

寿老神

鹿は　長寿を司る寿老神の使いとされている。

寿老神は　人に延命長寿の福徳を授ける福神として　信仰されてきた。

大黒天　（財宝や食糧の神さま）

大黒天は、ずきんをかぶり　狩衣を着て　右手に打出の小槌を持ち、左手には左肩にかけて大きな袋をかつぎ、米俵の上を踏まえる。

小槌と袋は限りない財宝や食糧を蔵していることをあらわしている。人々に財宝を授ける福神である。米俵に縁のあるところから　鼠が大黒天の使いとなっている。初甲子（初大黒ともいう。子は　ねずみのこと）は　一月の最初に来る甲子の日をいい、大黒天の祭日となっている。また　わが国の大国主命と結びついて民間信仰に浸透し、「えびす」と共に台所などに祭られる。

大黒天　　恵比須神　　布袋尊

恵比須神　（商売繁盛や航海安全の神さま）

恵比須神は　顔は笑顔をみせ（これをエビス顔という）、烏帽子をかぶり、狩衣を着て　右手に釣竿を持ち　左手に釣りあげた鯛を抱き、岩の上に坐っている。三歳まで足がたたず不具であったという。また釣好きの神であるともいわれている。最初は　航海安全の神として信仰されてきたが　のち商売繁盛の神として　ひろく信仰されるようになる。また釣り関係の人々の信仰もみられる。一月10日が　初恵比須、十日戎ともいい、兵庫県の西宮恵比須神社を中心として　関西に　戎信仰がさかん。商売繁盛を祝福して恵比須神を祭り　親類・知人を招いて祝宴を開く恵比須講がおこなわれる。

布袋尊（清廉潔白・大気度量の神さま）

布袋尊は 大きな布の袋を持ち、大きな団扇を手にし、身体は低いが 腹を露出した大肚腹（この腹を 布袋腹という）、粗末な衣服をまとい、常に笑顔を忘れない。清廉潔白、大気度量（おおようなこと）を人々に授ける福神として信仰され、禅画や置物にまでなって親しまれている。

毘沙門天（勇気や財宝の神さま）

毘沙門天は 多聞天ともいい、甲冑をつけ、片手に宝塔を掲げ もう片方には三つ又の鉾を持ち 怒怒の相をなしている。毘沙門天は 上杉謙信（戦国時代の武将）が毘沙門天を守護神とするなど 古来武将が信仰したもの。大和信貴山の毘沙門天や京都鞍馬山の毘沙門天は有名。

七福神の毘沙門天は 人に勇気、決断力を与え、財福を与える施福の神として信仰されてきた。

弁財天（芸道音楽や財宝の神さま）

弁財天（弁天さま）は 七福神の中で唯一の女性の神で 白色の美顔、頭に宝冠、一般には青色の衣を着て 左手には琵琶を抱き、右手でこれを弾いている座像が多い。中には腕が8本あって左手に弓・刀・斧・羂索を 右手に箭・三鈷戟・独鈷杵・輪宝を持つものもある。古来、安芸の宮島、近江の竹生島、相模の江ノ島の弁財天などが有名。財宝を授ける福の神として信仰され、また 芸道音楽の仏神として位置づけられ、池、川、沼、湖などに中島を作って そこに祭られ、蛇が 弁財天の使いとされてきた。

正月最初の巳の日を昔から初巳、初弁天として 弁財天への参詣者が多い。巳成金という開運のお守りを受ける。

福禄寿（福と禄と寿を授ける神さま）

福禄寿は 背が低く 頭がきわめて長く 白髪童顔で髭多く 巻物を結びつけた杖を右手に、わきには長命の鳥である鶴を従える。長命と円満な人格を授ける福神。また 福（幸福）と禄（俸禄）と寿（長寿）を授ける福神とも。

毘沙門天

弁財天

福禄寿

〔七福神のおいたち〕

七福神は生いたちも性格もかなり違う種々雑多な神々の寄せ集めといえる。

寿老神　（中国の寿星の化身、一説には老子の化身とも）

寿老人とも書き、もと中国の宋代、元祐年間（1086～93）の人と伝えられる。寿星（老人星ともいい、カノープスの中国名。）の化身という。南極星の化身である福禄寿と似た性格を持ち混同されやすい。福禄寿と同体異名であるともいわれる。

また一説に中国の老子（中国の道教を開いた人）の化身とも伝えられる。

大黒天　（古代インドの神、一説には大国主命とも）

大黒天信仰に二つの流れがある。一つはインド名をマハーカーラという仏神の大黒天、すなわち摩訶迦羅天でこれは多くは寺院にまつられている。一つは大黒天を実は大国主命であるとする流れでこれは多くは神社にまつられている。中世、大黒天は大国主命と音が似ていることから混同されたのである。大黒信仰の流布にもっとも大きな役割を果たしたのが正月などに大黒の面や頭巾をかぶって家々を訪れ、めでたい詞をとなえながら大黒舞を舞う門付芸人であった。

恵比寿神（イザナギノミコトの第三子、一説には大国主命の子とも）

恵比須神はもと兵庫県西宮市の西宮恵比須神社の祭神である蛭子尊（伊弉諾尊の第三子）であるといわれる。また一説には大国主命の子にあたる事代主尊であるともいわれる。

恵比須信仰は 初め 漁業に関係する神として漁民の間でおこなわれていたものが 後に 都市や農山村に普及していったのである．タイを釣りあげている姿となっているのは 元来 漁民の間の信仰から成長したことを物語っている．農村では 大黒天と並べて恵比須神をあがめ 福がくることを願い 都市では 商売繁盛の神として 商家などで祭礼をおこなったりしている．

布袋尊 （中国の禅宗の僧、一説には 弥勒菩薩の化身とも）

中国唐代の契此という名の禅僧といわれる．杖と大きな袋を持って諸国をめぐり 喜捨（進んでほどこしものをすること）を求め歩いたという．子供と遊び楽天的な和尚として知られた．そこで世人は 契此を 弥勒菩薩の化身であるとして尊び その円満の相は 好画題として画像に描かれたり 彫刻や塑像に刻まれたりして ひろく親しまれた．わが国では七福神の一人となり 絵画や置物としても親しまれている．

毘沙門天 （古代インドの神）

毘沙門天は 古代インドの神で インド名をバイスラバンナという．説法をよく聞くことから 多聞天ともいう．多聞天は 四天王の一つで、須弥山（仏教で 世界の中心にあるという高山）の中腹にあって 北方を守り 仏法を守護する仏神である．

弁財天 （古代インドの神）

弁財天は 古代インドの神．聖河の化身という．川の神である．川の流れの音から音楽の神とも弁舌の神ともなる．また 弁才天とせず 弁財天と書いて財宝を与える福の神ともなる．また 吉祥天と混同されたり 穀物の神である宇賀神と同一視されたりする．

福禄寿 （中国の南極星の化身）

福禄寿は 中国では 南極星（南十字星）の化身といわれている．一説には、中国宋代に実在した道士（道教を修めた人）であるともいわれている．

〔七福神巡りの場所〕

谷中七福神（国電田端駅下車）（国電上野駅）

東覚寺（福） 青雲寺（恵） 修性院（布） 長安寺（寿） 天王寺（毘） 護国院（大） 不忍池弁天堂（弁）

隅田川七福神（都営浅草線本所吾妻橋駅または東武線業平橋駅下車）（鐘ケ淵駅）

三囲神社（恵・大） 弘福寺（布） 長命寺（弁） 白鬚神社（寿） 向島百花園（福） 多聞寺（毘）

浅草七福神（地下鉄浅草駅下車）

浅草寺（大） 浅草神社（恵） 待乳山聖天（毘） 今戸神社（福） 橋場不動院（布） 石浜神社（寿） 鷲神社（寿） 吉原神社（弁） 矢先神社（福）

深川七福神（地下鉄東西線門前仲町駅下車）（都営地下鉄新宿線森下駅）

富岡八幡宮（恵） 冬木弁天堂（弁） 心行寺（福） 円珠院（大） 竜光院（毘） 深川稲荷神社（布） 深川神明宮（寿）

亀戸七福神（国電亀戸駅下車）

香取神社（恵・大） 東覚寺（弁） 常光寺（寿） 普門院（毘） 天祖神社（福） 竜眼寺（布）

柴又七福神（京成柴又駅または高砂駅下車）

医王寺（恵） 宝生院（大） 万福寺（福） 帝釈天（題経寺・毘） 真勝院（弁） 良観寺（布） 観蔵寺（寿）

日本橋七福神（地下鉄東西線・浅草線人形町駅下車）

水天宮（弁） 小網神社（福） 常盤稲荷神社（布） 椙森神社（恵） 笠間稲荷神社（寿） 末広神社（毘） 松島神社（大）

山の手七福神（国電飯田橋駅下車）（地下鉄丸ノ内線新宿御苑前駅）

善国寺（毘） 経王寺（大） 厳島神社（弁） 法善寺（寿） 永福寺（福） 稲荷鬼王神社（恵） 大宗寺（布）

山の手七福神（国電五反田駅下車）

目黒不動(恵)　蟠竜寺(弁)　大円寺(大)　妙円寺(福・寿)　瑞聖寺(布)　立行寺(毘)

東海七福神（京浜急行新馬場駅下車）（大森海岸駅）

品川神社(大)　法禅寺(布)　荏原神社(恵)　品川寺(毘)　海晏寺(寿)　浜川神社(福)　磐井神社(弁)

池上七福神（東急池上線池上駅下車）

養源寺(恵)　馬頭観音堂(大)　曹禅寺(布)　本成院(福)　微妙庵(毘)　厳定院(弁)　妙見堂(寿)

港七福神（麻布七福神・都営三田線芝公園駅下車）

宝珠院(弁)　熊野神社(恵)　大法寺(大)　氷川神社(毘)　桜田神社(寿)　天祖神社(福)　久国神社(布)

板橋七福神（西武池袋線江古田駅下車）

能満寺(寿)　安養院(弁)　長命寺(福)　西光寺(布)　文珠院(毘)　観明寺(恵)　西光院(大)

武蔵野七福神（西武池袋線飯能駅下車）（西武秩父線西武球場前駅）

円泉寺(福)　諏訪神社(恵)　観音寺(寿)　浄心寺(毘)　円照寺(弁)　光福山長泉寺(大)　山口観音(布)

下谷七福神（国電鶯谷駅下車）（地下鉄日比谷線三ノ輪駅）

元三島神社(寿)　入谷鬼子母神(福)　英信寺(大)　法昌寺(毘)　朝日弁財天(弁)　飛不動尊(恵)　寿永寺(布)

秩父七福神（西武秩父線横瀬駅下車）（秩父鉄道野上駅）

東林寺(恵)　金仙寺(布)　惣円寺(弁)　田村・円福寺(寿)　鳳林寺(毘)　大浜・円福寺(大)　総持寺(福)